

## 少子化時代見据えた 本学の経営改革取り組み

## 令和6年度 文科省支援事業に採択

## 社会と連携、高い専門人材の育成目指す

少子化時代を見据えた本学の経営改革の取り組みが、文部科学省が本年度に初めて設けた補助金事業「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」に採択されました。期間は5年間です。交付額は1000万～2500万円の規模で、3月に決定します。

この制度は、社会・地域等の将来ビジョンを見据え、自治体や産業界等と緊密に連携しながら社会・地域等の未来に不可欠な専門人材の育成を狙ったものです。教育研究面の構造的な転換や資源の集中等により人材育成機能強化に向けた経営改革を行う中小規模の大学、短大、高専を支援します。今回は、全国の45校が選ばれました。

本学では、育成する人材像を「地域の保健医療の向上に資する高い専門性を有する人材」「地域の多様な医療ニーズに対応できる問題解決力や想像力を有する人材」の育成を目指し、令和7～10年度に以下の7事業を推進します。

① 看護学科の看護教育の充実（3.との関連）及び医学検査学科の自治体や企業と連携した教育研究

の充実（4.との関連）

② リハビリテーション学科の日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成校の指定（定員20名新設）（令和7年度）

③ 公衆衛生看護学専攻科（保健師養成）の設置（入学定員20名新設）（令和7年度）

④ 社会人（保健医療人材）向け資格対策講座（細胞検査士）の開講（定員5人程度新設）（令和7年度）

⑤ 認定看護師教育課程・特定行為研修課程の定員増（入学定員20人→22人）（令和8年度）

⑥ 大学院修士課程の定員増（入学定員10人→15人）（令和9年度）

⑦ 大学院博士後期課程設置（入学定員2人新設）（令和10年度）

全国的な少子化はもちろん止めることはできませんが、本学の維持・発展は可能です。今後もあらゆる部署で新たなチャレンジを続けていきましょう。（経営企画室）

## 学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 経営改革計画イメージ

## 社会・地域等の将来ビジョン【第8次熊本県保健医療計画・第5次熊本県健康増進計画】

## 地域の現状

- 熊本県で、少子高齢化に伴い、看護師・保健師等の職員が3,500人以上不足。また、地域包括ケア等の医療ニーズの増大、高度化に対応できる医療人材が必要
- 熊本県は、全国上位の長寿県だが、健康寿命は全国平均以下で、平均寿命との差（不健康な期間）が男性は約10年、女性は約13年と乖離

## 施策の方向性

- 超高齢社会・人口減少社会における持続可能な医療体制の構築  
→ 地域の保健医療を支える人材の確保・育成【第8次熊本県保健医療計画】
- 生涯を通じて心豊かで健康に暮らし続ける（健康寿命の延伸）  
→ 食生活、スポーツ等のより良い生活習慣の形成に向けた県民や産学官が一体となった健康づくりの推進【第5次熊本県健康増進計画】

## 大学として育成する人材像

上記計画で必要とされる医療人材のニーズを踏まえ、以下の2点を育成する人材像とする。

①「地域の保健医療の向上に資する高い専門性を有する人材」 ②「地域の多様な医療ニーズに対応できる問題解決力や想像力を有する人材」

## 厳しい少子化時代を生き抜く大胆な構造転換を実施

## 構造転換の方向性

学部の質向上と競争力強化を図りながら、卒業生・社会人を対象とした地域の保健医療ニーズに応える高度な医療人材の育成へと重心をシフト！

## 具体的取り組み

＜学部・大学院・リカレント教育の充実を図る7事業と学納金の見直しによる財務の健全化に一体的に取り組み、「キラリと光る」構造転換を図る＞

（大学院）

## 保健科学研究科

## 公衆衛生看護学専攻科 令和7年度新設！

## 助産学科

③ 新たに、社会の養成に応える質の高い保健師を養成！（定員20名）

保健科学部：  
定員 1,360名

## キャリア教育研修センター

令和7年度新設！

① 看護学科の看護教育の充実（3との関連）、医学検査学科の自治体・企業と連携した教育研究の充実（4との関連）

② 新たに、令和7年度からリハビリテーション学科に日本スポーツ協会公認アスレティック・トレーナーの養成校の指定！（定員20名で申請）

令和8年度～

④ 「細胞検査士コース」新設（定員5名）

⑤ 認定看護師教育課程等の定員増！（20名→22名）

## 財務基盤の強化【学納金見直し】

（大学院）

## 保健科学研究科

修士課程 定員：10名

## 助産学科

別科 定員：20名

## 保健科学部：定員 1,360名

医学検査学科（100名）

看護学科（定員100名）

リハビリテーション学科（定員140名）

臨床検査技師

看護師

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士

を養成

## 年3回の測定会 若い力後押し

健康・スポーツ教育研究センターは熊本県スポーツ協会と連携し、2024年度も「くまもとワールドアスリート事業」に取り組みました。同事業は、将来のオリンピックや国際大会で活躍が期待される次世代アスリートを育成する取り組みで、中学・高校・大学の指定選手たちを対象としています。

事業の一環として、年3回にわたり若手アスリートを対象に体力測定会を実施。身体組成や筋力、スプリント能力、反応速度といったフィジカルテストに加え、心理的な側面も評価します。測定結果は選手や指導者に共有され、トレーニング計画の改善に役立てられます。

測定会は、単なる評価の場にとどまらず、選手たちが自己管理能力を養う機会でもあります。このプロセスが、日々の競技生活における重要なスキルの習得に寄与しています。

この取り組みは令和3年度から実施されています。当初は手探りでスタートとなり、対応できる教職員も限られた状況でしたが、より良い事業を目指して検討を重ね、現在では多くの支援を受けて実施できる体制が整ってきました。

これまで本事業に参加したアスリートの中から、全国高校総体水泳競技優勝者、レスリングU23世界選手権優勝者、全国高校総体陸上女子100㍓・200㍓優勝者、ボクシング全日本選手権大会優勝者が輩出されるなど、着実に成果が現れています。

今後は、測定データの蓄積とその有効活用を目指し、新たな展開を計画しています。熊本県スポーツ協会との連携をさらに強化し、より多くの選手たちの成長を支える仕組み作りを進めていきます。

測定会にはリハビリテーション学科理学療法学専攻の学生も参加し、センター所属の教職員の指導のもと、実際にアスリートサポートを体験します。この取り組みは本学に在籍することで得られる特別な経験であり、スポーツ医科学に関する知識・技術・経験を深め、自らのキャリアプランを考えるうえで貴重な機会となっています。

学生たちは、スポーツ現場での実践を通じて、理論と実務を結びつける貴重な機会を得るとともに、スポーツ界でのキャリアを目指す意欲を高めています。

健康・スポーツ教育研究センターは、「くまもとワールドアスリート事業」を通じて熊本県全体のスポーツ振興に少なからず貢献してきました。本事業は、センターの象徴的な取り組みであり、熊本県のスポーツ振興を支える基盤として位置づけられています。

今後も、本事業を通じて次世代を担うオリンピックや国際大会で活躍するスター選手を育成するための支援体制をさらに強化し、スポーツを通じた地方創生に積極的に取り組んでまいります。

(健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴)

写真上は、CPX(持久力テスト)を受ける選手たち。同下は、センター所属教員から機器の取り扱いの説明を受ける学生たち

## 新看護学科長に荒尾教授 共通教育センター長は竹永教授

任期満了に伴い、令和7年度からの学科長と共通教育センター長が任命されました。このうち、看護学科長には現副学科長の荒尾博美教授、共通教育センター長には竹永和典教授が新たに就任します。医学検査学科の上仲一義学科長(教授)、リハビリテーション学科の田中聡学科長(教授)は再任です。任期は、いずれも4月1日から2年

間です。

また、リハビリテーション学科の各専攻長も以下の通り決まりました。

◇理学療法学専攻長 久保下亮准教授(新任)、  
◇作業療法学専攻長 山野克明教授(新任) ◇言語聴覚学専攻長 大塚裕一教授(再任)



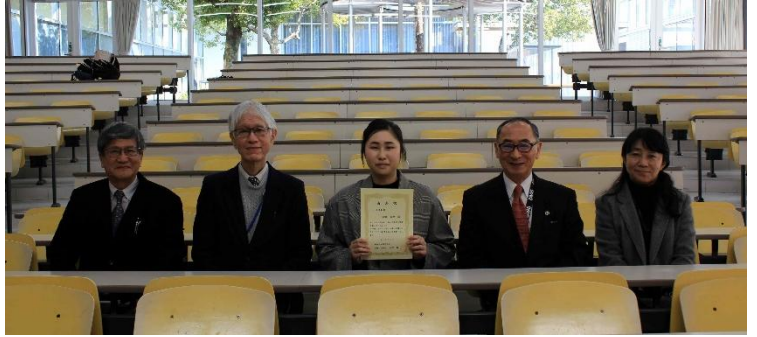
共通教育センター准教授  
向井 良人

水俣病に対する企業の責任は1973年に熊本地裁で(国と熊本県の責任は2004年に最高裁で)確定した。なぜいま〈増補・新装版〉なのか。専門を超え協働という形態も含め、本書の先駆性・先見性は単に一企業の責任を明らかにするのではなく、現在の様々な問題をも射程に収めている。いまだからこそ、多様な視点、幅広い関心のもとに読み解かれるべき仕事なのだと、編集を手伝いながら感じている。

渡邊教授は「『わかりやすい文章』を書くという点では、文章のプロであろうと、発展途上にある学生であろうと基本は同じです。質疑応答を通じ、査読をする立場の人たちの悩みも聞くこともでき、有意義な時間を過ごすことができました」と話していました。（NL編集部）



写真左は、渡辺学部長から表彰される前田さん。同右は、表彰後記念撮影する関係者。左から竹屋学長、渡辺学部長、前田さん、木下理事長、佐々木教授



## Lovers前部長 前田さんに学部長表彰

### 難病患者・家族の支援 コロナ後の活動立て直しに尽力

難病患者やその家族への支援活動に取り組むボランティアサークル「Lovers～難病患者・家族を支える会」前部長の前田茉穂さん＝医学検査学科3年＝が21日（火）、学部長表彰（社会活動賞）を受けました。

前田さんは昨年10月まで約1年半にわたって部長を務めました。部長就任は、内閣府特命大臣表彰を受けたのを機に部員数が急増していた時期で、前田さんはサークル登録者が100人超に急膨張したサークルのかじ取りに腐心してきました。折しも、コロナ禍が収まり始めた時期とも重なり、患者家族会をはじめとした外部からの支援活動再開の要請にも積

極的に対応。一度途切れた慰問演奏も自ら後輩を指導し再開させるなど、ボランティア活動が円滑に進むよう尽力してきました。

1300L講義室で行われた表彰式では、木下統晴理事長、竹屋元裕学長、サークル顧問の佐々木千穂教授ら教職員が見守る中、渡辺雄一学部長が表彰状と副賞を授与。前田さんは「患者さんの喜ぶ顔が見たくてやってきた活動だったので賞をもらっていいのかなという気持ち。大変なことも多かったけどやってきてよかったです」と笑顔を見せていました。

（入試・広報課）

## ピア・サポ通信

### 1年次生に向け「試験対策相談会」

1年生を対象とした「定期試験対策相談会」を7（火）、9（木）、14日（火）の昼休み、キャンパステラスで開催しました。

1年生からは教科別の勉強方法や内容についての質問を多く頂きました。また初めての後期試験であることや教科数が多いことなどから、不安な気持ちがある様子でした。私たちは事前に、1年生の時の思い出して試験勉強の方法や内容を書き出して準備し、それらを伝えることでニーズに応えられるようにしました。また少しでも不安を軽減しようと、気持ちの傾聴・受け止めを行いながら安心出来る声掛けを意識しました。

いつもこのような活動をしていますが、会場に行きづらいと感じている方もいらっしゃるかと思います。私たちはいつでも皆さんのことを待っていますのでぜひ来てください！皆さんの周りには家族や友達、そして、私たちピア・サポーターがいます！いつでも話しかけてくださいね！待っています！！（看護学科3年 竹内若奈、竹内花奈）



卒業生への感謝、激励…

## 「贈ることば」募集中

週刊NEWSLETTERでは、卒業していく4年次生のための「贈ることば」を募集中です。レストラン・ピア玄関前に「サンクス・ツリー」を設けました＝写真。学生、教職員を問わず感謝、激励など何でもOKです。もちろん、イラストも大歓迎です。匿名ですから、気軽に投稿願います。ツリーに直接貼り付けても備え付けボックスに入れてもかまいません。

「ことば」の一部は、週刊NEWSLETTER卒業特集号で紹介します。（NL編集部）

活動時は、この旗が目印です！



# 就活前に「なりたい姿」明確化 卒業生招きキャリア講演会

リハビリテーション学科理学療法学専攻2、3年次生を対象としたキャリア講演会が8日（水）、理学療法学専攻と就職・実習支援課の共催で開催されました。

理学療法学専攻では、2022年度にスポーツリハビリテーションコースが新設され、2025年度には第1期生の就職活動が本格化します。学生がなりたい姿や夢を明確化し、志望する就職先への内定を得ることができるよう、医療系企業、スポーツクリニック、公的医療機関や県外での就職など、さまざまな話を聞くことを目的として本講演会を実施しました。

講演会終了後には、学生から「現在、現場で活躍している熊保の卒業生の話を聞くことができ、とても役に立ち、意識を変えることができたと思います」（2年次生）、「自分から動くことを意識しようと思えた。早速今日から動いて、自分の将来は自分で実現できるように頑張りたい」（3年次生）等の感想が寄せられました。

本講演会を通して、学生一人ひとりが自身のキャリア形成を主体的に考え、取り組むことを期待しています。

（就職・実習支援課）

## インフォメーション

| 週間行事予定（1月28日～2月4日） |        |
|--------------------|--------|
| ～30（木）             | 後期定期試験 |
| 2/4（火）             | 一般選抜   |